取扱説明書

このたびはDXアンテナ製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。

DXアンテナの製品を正しく理解し、ご使用いただくために、
ご使用の前に必ずこの取扱説明書をよくお読みください。
お読みになった後は、いつでも見られるところに必ず保存してください。

DIGITAL

470～710MHz（UHF帯:ch.13～52）対応

DIGICATCH Flat Power

地上デジタル放送用平面アンテナ

［ブースター内蔵、水平・垂直偏波共用、出力75Ω（F形座）仕様］

UAD1900

壁面に取り付けるとき

マストや角柱に取り付けるとき

φ22～49mmのマスト、
□30～45mmの角柱に
取り付ける場合

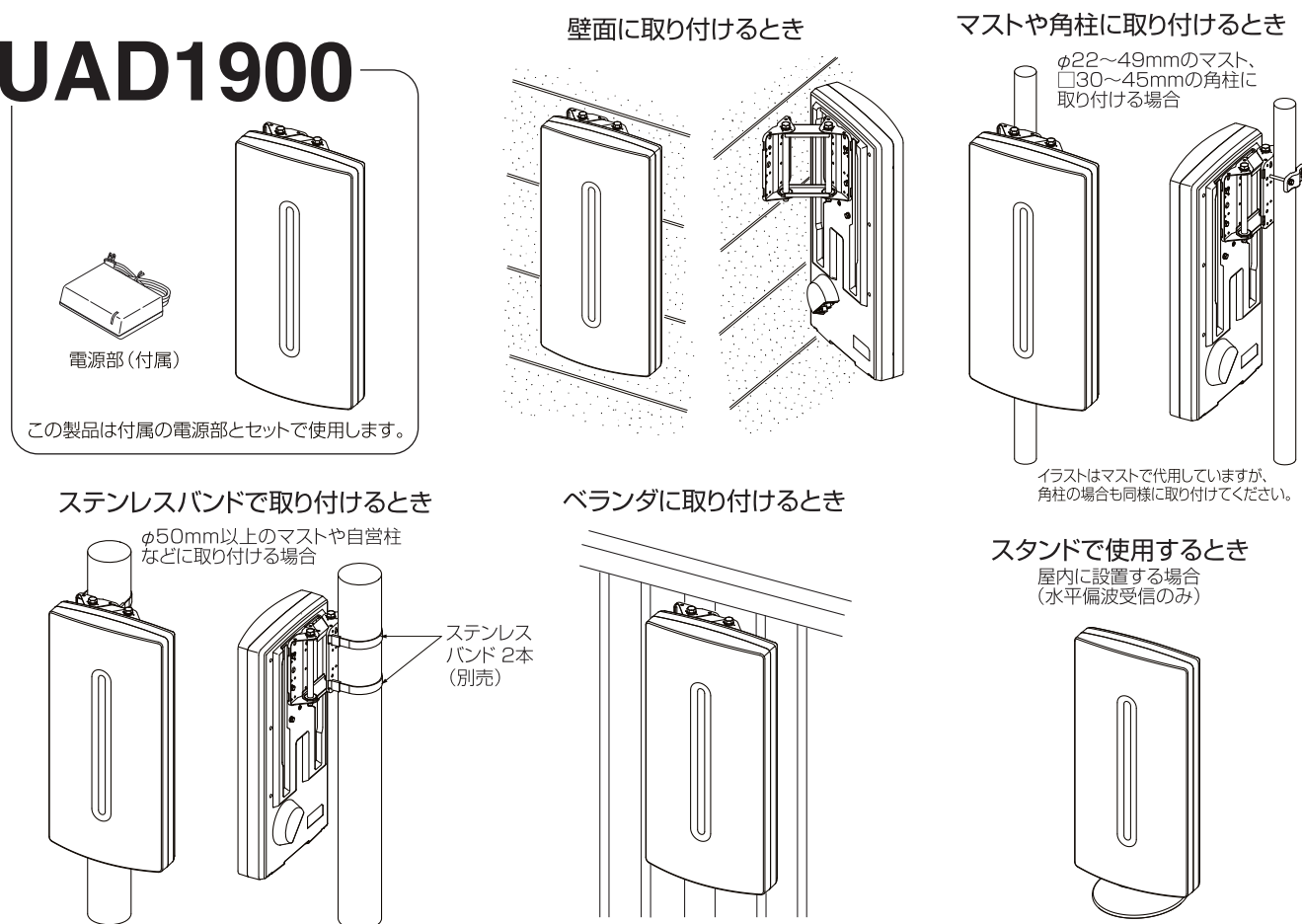
イラストはマストで代用していますが、
角柱の場合も同様に取り付けてください。

ステンレスバンドで取り付けるとき

φ50mm以上のマストや自営柱
などに取り付ける場合

ステンレス
バンド 2本
（別売）

スタンドで使用するとき

屋内に設置する場合
（水平偏波受信のみ）

製品の特長

- 25素子相当の地デジ平面アンテナにブースターを内蔵し、システム性能約60%UP。
- CS/BS-IFとUHF混合回路を内蔵し、地上デジタル放送とBS・110度CSデジタル放送を1本の同軸ケーブルで伝送できます。
- 地上デジタル放送の主な使用チャンネル（ch.13～52）に特化し、優れた威力を発揮します。
- 水平、垂直の両偏波受信対応で、ケーブル接続・引き回しが容易な背面出力端子を採用。壁面取付時でも水平偏波受信時の方位角可動範囲は左右各60度で、電波到来方向への最適な角度で設置できます。
- 出力モニター端子を装備していますので、設置・配線後の方向調整が容易です。
- 取付金具は、壁面だけでなくマスト（φ22～49mm）や角柱（30×30mm～45×45mm）、市販のステンレスバンドにも対応した多用途設計で、アンテナの突出をおさた設置が可能です。
- 水平偏波受信、垂直偏波受信、屋外、屋内のそれぞれの設置に対応しています。（付属スタンドは水平偏波設置専用です。）
- 樹脂ケースで覆われたアンテナ部には直接の積雪がなく、性能劣化が少ない構造です。
- 先端加工不要で抜け落ち防止の防水キャップを採用し、取り付けが容易です。
- 付属の電源部は余裕ある電源容量で、BS・110度CSアンテナにも電源を供給できます。
- 土壌汚染・大気汚染など環境に影響を与える物質や人体に悪影響を及ぼす物質を使用しない事、消費電力を削減する事など厳しい自社基準をクリアーした製品です。

安全上のご注意

	△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。 図の中に具体的な注意内容（左図の場合は警告または注意）が描かれています。
	⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。 図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は接触禁止）が描かれています。
	●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。 図の中に具体的な指示内容（左図の場合は注意して行なってください）が描かれています。

警告

この内容を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

- アンテナ工事およびテレビ受信関連工事には技術と経験が必要ですので、お買い上げの販売店もしくは工事店にご相談ください。

- 表示された電源電圧（AC100V　50/60Hz）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。

- この製品に接続する同軸ケーブルには、テレビ電波以外に電流が流れることがあります。電源コードや同軸ケーブルなどを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したり、（熱器具に近づけたり）引っぱったりしないでください。火災・感電の原因となります。電源コード、同軸ケーブルなどが傷んだときは（心線の露出、断線など）お買い上げの販売店もしくは工事店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電などの原因となります。

- 次のような場所には設置しないでください。

<アンテナ>

・送配電線、ネオンサイン、電車の架線や電話線などの近く
　アンテナが倒れた場合、感電、断線の原因となります。

・人や車両の通行の妨げになる場所
　人がぶつかったり、車両が接触してけがや破損の原因となります。

・地盤の弱い場所、強度の弱い場所、不安定な場所、ぐらついたり振動する場所や傾いた場所
　落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。

・煙突の付近や高温になる場所
　火災の原因となります。

<電源部>

・屋外、風呂場や洗い場など水がかかる場所や水などの入った容器の近く
　電源部は屋内専用です。火災・感電の原因となります。

・直射日光の当たる場所や調理台、加湿器のそばなど高温になる場所、油煙や湯気が当たるような場所、ほこりの多い場所
　火災や破損の原因となります。

・強度の弱い場所、不安定な場所、ぐらついたり振動する場所や傾いた場所
　落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。

- 設置やお手入れ、点検をする際には、次のことにご注意ください。

・高所などでは、足場と安全を確保して行なってください。
　落ちたり、すべったりしてけがの原因となります。

・組み立てや取り付けのネジやボルトは、締め付け力（トルク）に指定がある場合はその力（トルク）で締め付け、堅固に固定してください。
　落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。

・風の強い日や雨、雪、霧などの天候が悪い日は、危険ですから設置工事やお手入れ、点検をしないでください。
　落ちたり、倒れたりしてけがの原因となります。

・アンテナの部品や工具類を高い所から落とさないでください。
　けがの原因となります。

・アンテナや電源部のケースを開けたり、分解して内部に触れないでください。
　感電やけがの原因となります。内部の点検・調整・修理は販売店もしくは工事店にご依頼ください。

・万一、電源部の内部に水などが入った場合や煙が出たり、変な臭いがする場合は、すぐにこの電源部の電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店もしくは工事店にご連絡ください。
　そのまま使用すると火災や感電の原因となります。煙や臭いがなくなるのを確認して販売店もしくは工事店に修理をご依頼ください。

- 雷が鳴り出したら、アンテナやケーブルには触れないでください。
感電の原因となります。

警告

この内容を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

● 電源部の取り扱いについて、次のことに注意してください。
・電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。
電源コードを引っぱるとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
・ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となることがあります。
・電源部の上や周囲にろうそく灯など炎が発生しているものを置かないでください。
倒れたりして火災の原因となります。
・電源部にテーブルクロスを掛けたり、じゅうたんや布団の上に置かないでください。
内部に熱がこもり、火災の原因となります。

注意

この内容を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

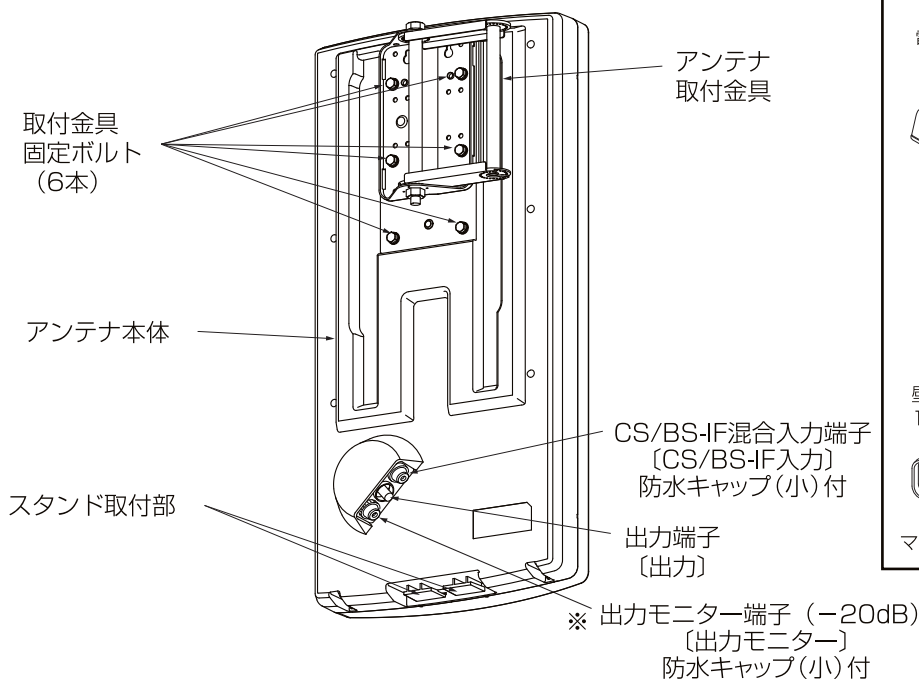
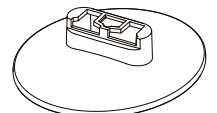
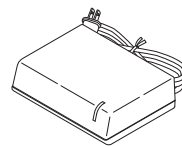
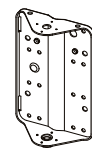
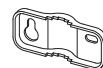
● 台風の後や積雪の後などは、アンテナや取付装置に緩みや異常が生じることがあります。そのままにすると破損したりして、けがや故障の原因となることがあります。点検はお買い上げの販売店または工事店にご依頼ください。

● アンテナや取付装置などに洗濯物や他の物品を掛けたりしないでください。
電源部の上に乗らないでください。
倒れたり、破損したりして、けがの原因となることがあります。

● マンションやアパートなどによっては、取り付けに規制のあるところがあります。管理組合、管理事務所、自治会などに必ずご確認のうえ、取り付けてください。

お取扱いの前に

- 組み立て、取付作業は、この取扱説明書をよくお読みのうえ行なってください。
- 強風の時や、雨や雪など天候の悪いときは危険ですから、取付作業は行わないでください。
- アンテナを落としたり、ぶつけたり、無理な力を加えることのないよう注意してください。
- 壁面やマスト、ベランダ等に取り付ける場合、設置場所の強度に注意し、また長期にわたり台風などの強風に耐えるように強固に固定し、落下、転倒しないよう安全性と信頼性を十分に考慮してください。
- 付属の電源部はこの製品専用です。他の機器には使用しないでください。

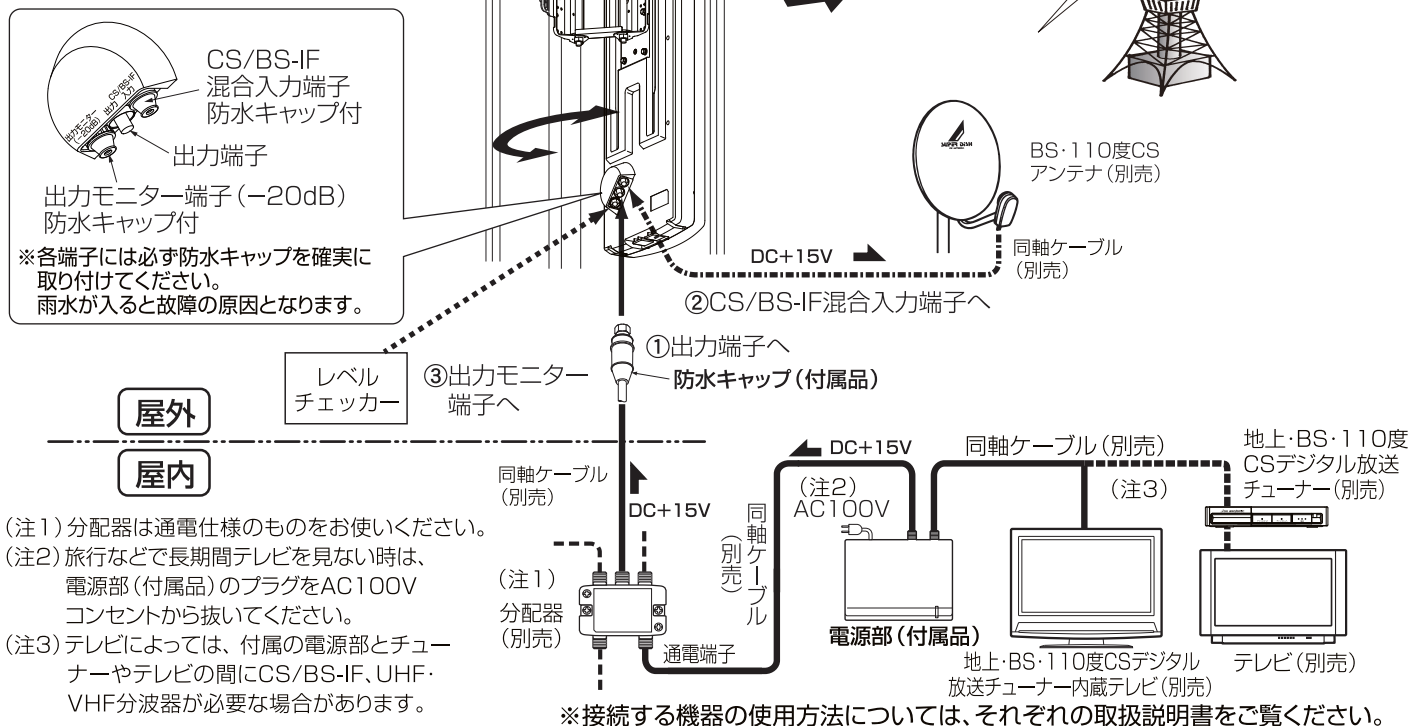
各部の名称

※出力モニター端子は測定専用の端子です。測定以外の用途では使用しないでください。

使用例

平面アンテナの設置作業をはじめる前に、受信する電波の到来（送信所）方向を確認して、受信できる設置場所をお選びください。
設置場所と電波到来方向の確認は3ページ、取付方法は4〜6ページ、接続方法は6〜8ページの各項目をご覧になり、正しく設置・接続してください。

①アンテナ本体の出力端子には、付属の電源部、地上（･BS･110度CS）デジタル放送チューナーまたは地上（･BS･110度CS）デジタル放送チューナー内蔵テレビの入力端子を同軸ケーブル（別売）で接続します。アンテナと電源部の間に分配器等を設置する場合は、通電仕様の機器を使用し、電源部は通電端子に接続してください。
②BS･110度CSアンテナを設置し混合伝送する場合は、CS/BS-IF混合入力端子に同軸ケーブル（別売）で接続します。
スカパー!HDは混合伝送できません。
③レベルチェッカーを使用する場合は、アンテナ本体の出力モニター端子に接続します。
●この端子では実際の受信レベルより約20dB低い値でモニター出力されます。
※接続する機器の使用方法については、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

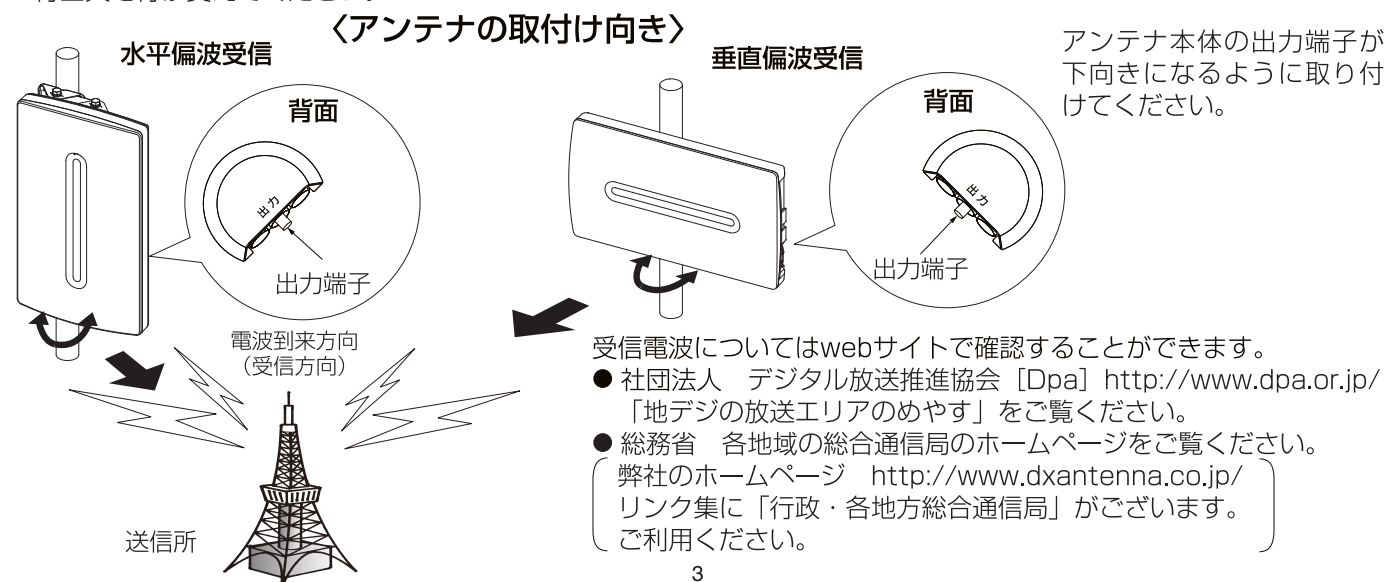
（注1）分配器は通電仕様のものをお使いください。
（注2）旅行などで長期間テレビを見ない時は、電源部（付属品）のプラグをAC100Vコンセントから抜いてください。
（注3）テレビによっては、付属の電源部とチューナーやテレビの間にCS/BS-IF、UHF･VHF分波器が必要な場合があります。

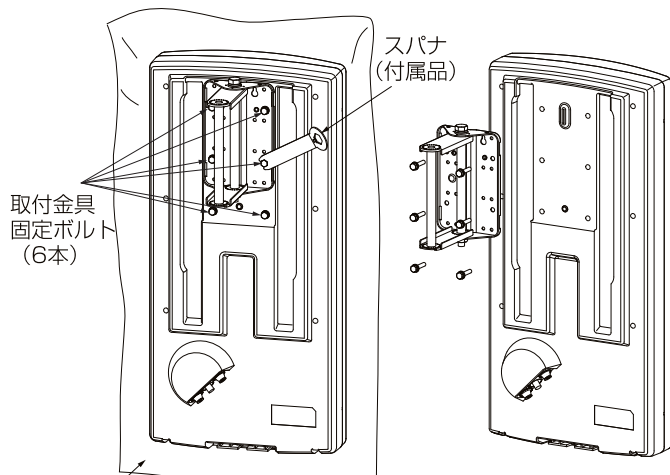
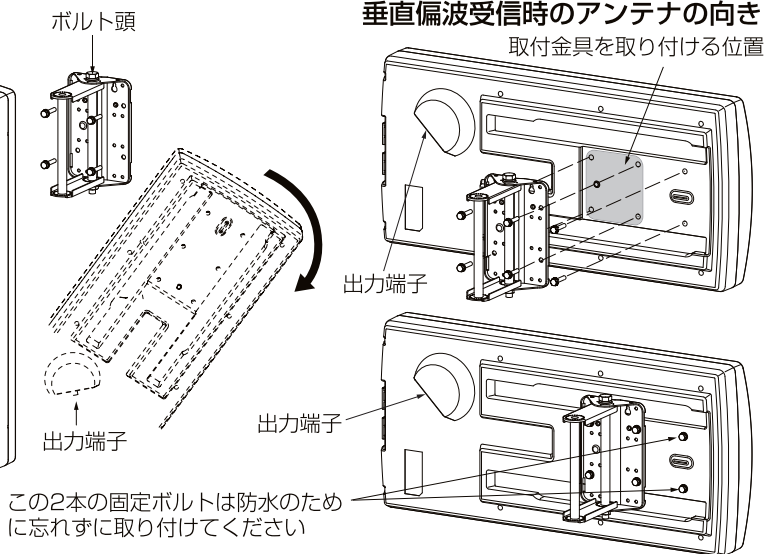
※接続する機器の使用方法については、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

受信偏波とアンテナの取付け向き

①受信する電波の到来方向（地上デジタル放送の送信所の位置）と電波が水平偏波か垂直偏波か偏波面を確認します。
お買い求めの販売店にお問い合わせください。
②電波の偏波面に合わせてアンテナの取り付け向きを変えます。（出荷時、取付金具は水平偏波受信用となっています）
4ページの「アンテナの取付け向きをかえる（アンテナ取付金具の取はずしと取付け）」を参照してアンテナ背面の取付金具を付け変えてください。

〈アンテナの取付け向き〉

アンテナ本体の出力端子が下向きになるように取り付けてください。

受信電波についてはwebサイトで確認することができます。
● 社団法人　デジタル放送推進協会［Dpa］http://www.dpa.or.jp/
「地デジの放送エリアのめやす」をご覧ください。
● 総務省　各地域の総合通信局のホームページをご覧ください。
弊社のホームページ　http://www.dxantenna.co.jp/
リンク集に「行政・各地方総合通信局」がございます。
ご利用ください。

アンテナの取付向きをかえる（アンテナ側取付金具の取はずしと取付け）

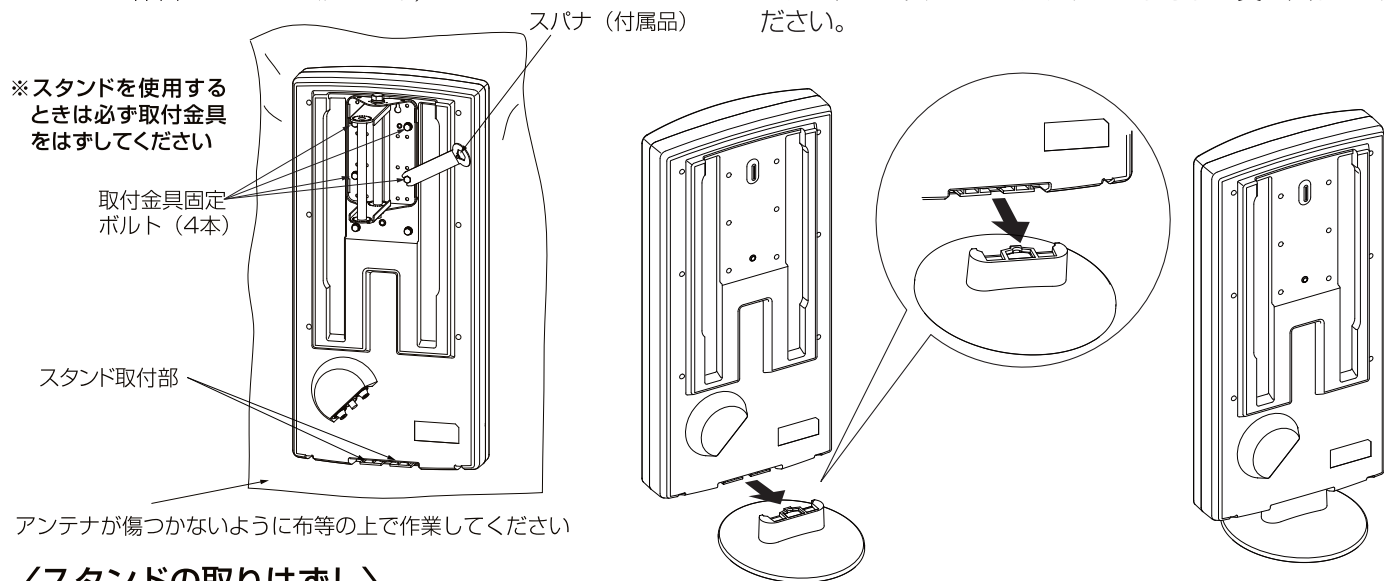
①アンテナ本体背面の取付金具固定ボルト6本を付属のスパナを用いてゆるめ、取付金具を取りはずします。

②アンテナ本体の向きを90度回転させてから、はずした取付金具を付け直します。このとき、取付金具のボルト頭が上側に出力端子が下側になるように取り付けてください。

アンテナの取付方法

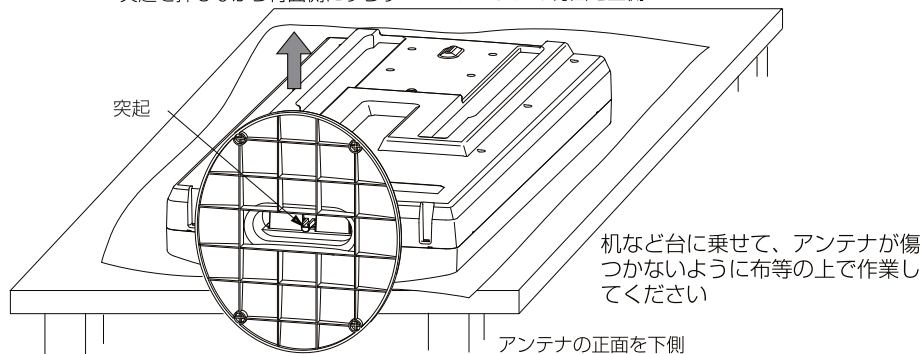
平面アンテナを取り付ける前に、電波が受信できることをあらかじめご確認ください。

屋内設置

〈スタンドの取付け〉

①取付金具固定ボルト4本を付属のスパナでゆるめて、取付金具全体を取りはずしてください。（取付金具とボルト、スパナは保管しておいてください。）

②アンテナ本体底面のスタンド取付部が付属のスタンドのガイドに沿うように、アンテナの背面側からはめ込みます。スタンドはストッパーがカチッとはまるまで奥に入れてください。

〈スタンドの取りはずし〉

スタンドをはずすときは、スタンド底面の突起をアンテナ側に押してください。突起を押しながらスタンドをアンテナ背面側にずらすとストッパーがはずれて、スタンドをアンテナからはずすことができます。

転倒防止のために

次のような所に設置してください。
・水平な場所
・設置面が堅く、安定した場所
・振動がない場所

- カーペット、敷布の上など設置面が軟らかい、不安定な所や万一地震等で倒れたときに怪我する恐れのある就寝場所の近くなどに設置しないでください。
- この製品の上に物を置かないでください。

アンテナの取付方法

屋外設置

平面アンテナを取り付ける前に、電波が受信できることをあらかじめご確認ください。

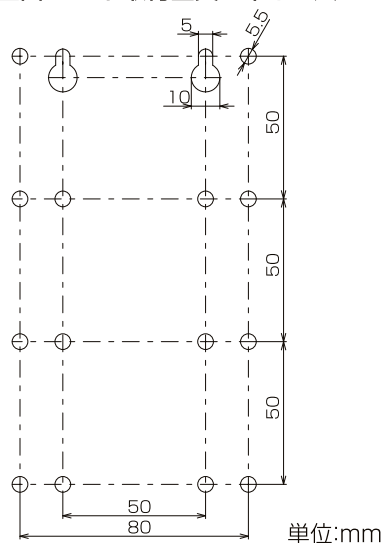
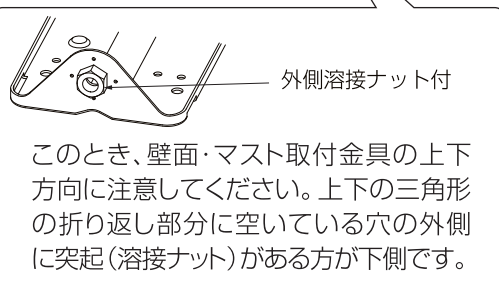
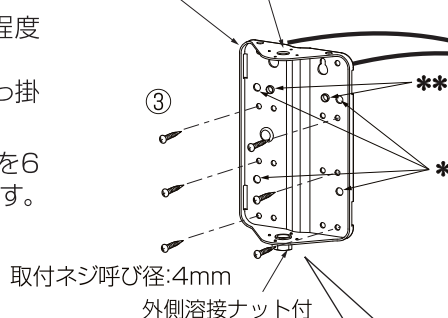
手順 1 はじめに、付属の壁面・マスト取付金具を固定し、その後アンテナ本体を取り付けます。

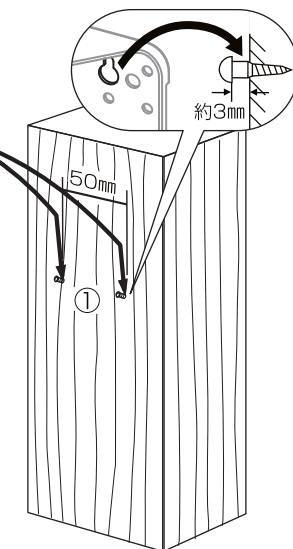
〈壁面に取り付ける場合〉

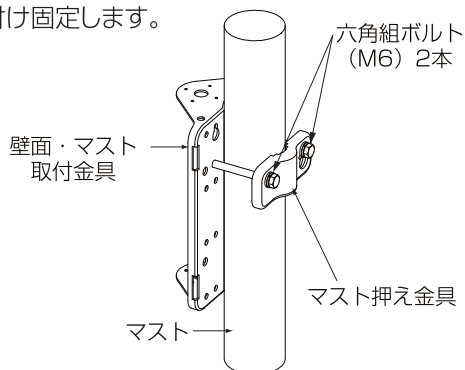
①市販の木ネジなど2本をネジ頭が3mm程度出た状態に取り付けます。
②木ネジに付属の壁面・マスト取付金具を引っ掛け、木ネジを締め付けます。
③他の穴も利用して、壁面・マスト取付金具を6か所以上木ネジなどで壁面に強固に固定します。

壁面・マスト取付金具の木ネジ穴ピッチ図

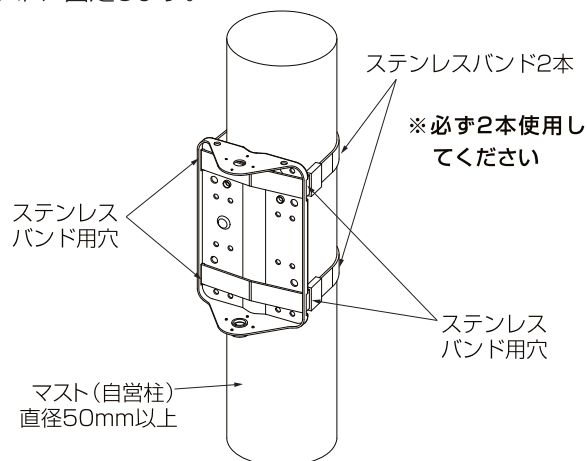
単位:mm

このとき、壁面・マスト取付金具の上下方向に注意してください。上下の三角形の折り返し部分に空いている穴の外側に突起（溶接ナット）がある方が下側です。

（注）十分な強度のある壁面に取り付けてください。

*印と**印の取付穴は六角ボルトM6用です。

※イラストでは板壁と木ネジで説明していますが、取付金具の穴に合う、壁面の材質に適したネジ類をご使用ください。詳しくは工務店にお問い合わせください。

〈マスト／角柱に取り付ける場合〉

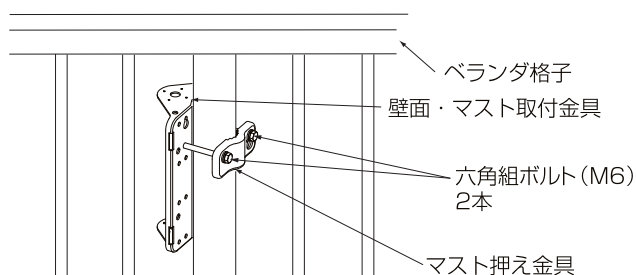
付属のマスト押え金具と壁面・マスト取付金具とでマストを挟み込み、六角組ボルト（M6）2本で左右均等に締め付け固定します。

直径22～49mmのマスト、30×30mm～45×45mmの角柱に取り付けることができます。
イラストはマストで代用していますが、角柱の場合も同様に取り付けてください。

〈市販のステンレスバンドで取り付ける場合〉

ステンレスバンド用穴4か所にステンレスバンドを2本かけてマストに固定します。

適合ステンレスバンド幅：20mm以下

〈ベランダ格子に取り付ける場合〉

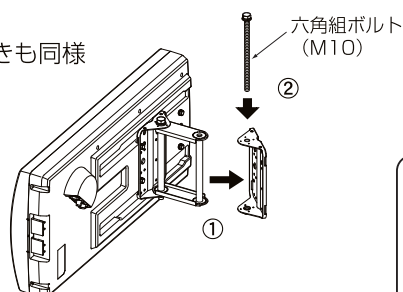
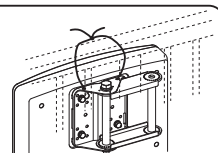
図のように、ベランダ格子の太さ直径22～49mm、または30×30mm～45×45mmの角柱部分を壁面マスト取付金具とマスト押え金具とで挟み込み六角組ボルト（M6）2本で左右均等に締め付け固定します。

六角組ボルト（M6）締付トルク　4～5N·m

アンテナの取付方法

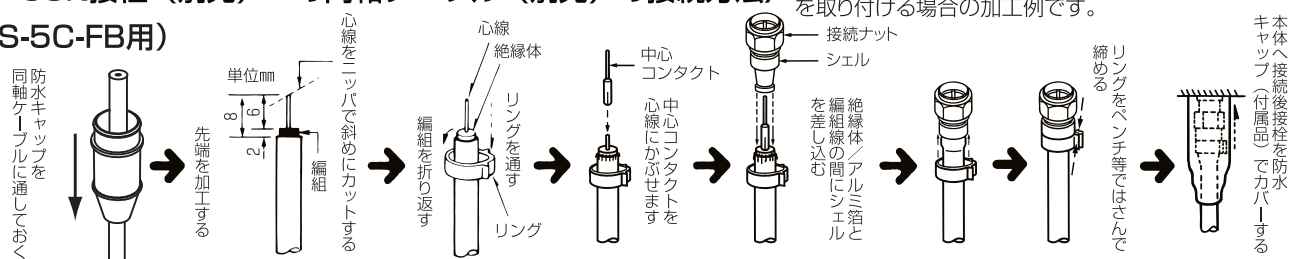
手順2 固定した壁面・マスト取付金具にアンテナ本体を取り付けます。

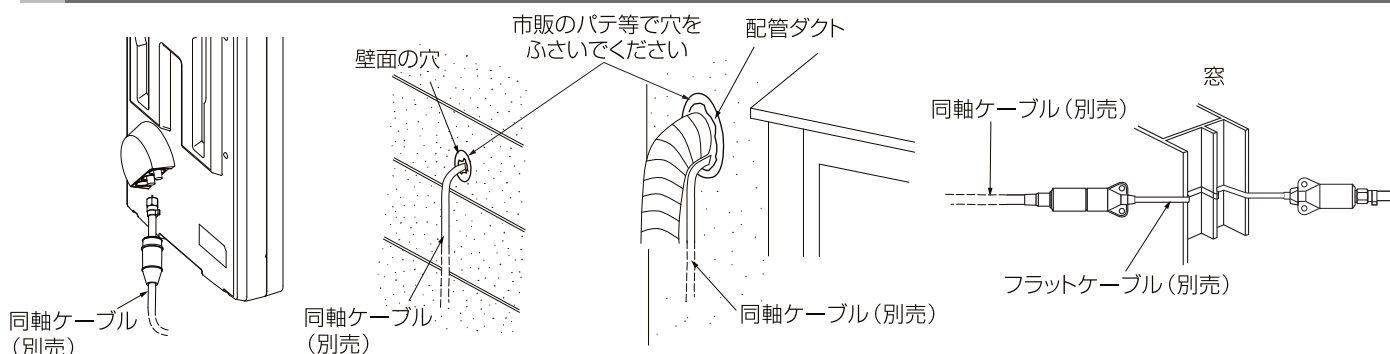
〈アンテナ本体を壁面・マスト取付金具へ取り付ける方法〉

①先に取り付けた壁面･マスト取付金具の上下穴に平面アンテナ背面の取付金具の上下穴を合せます。両方の金具が平行になるようにアンテナ側取付金具を差し込みます。

②下側の穴どうしがはまったところで、六角組ボルト（M10）を上側の穴から通して付属のスパナで仮止めします。

（ご注意）
落下防止のため固定用ロープ（市販品）を使用して作業してください。

防水キャップ（付属品）使用時の同軸ケーブルと接栓の接続方法

〈F-5SN接栓（別売）への同軸ケーブル（別売）の接続方法〉（S-5C-FB用）

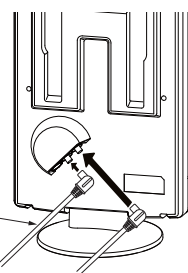
5C相当同軸ケーブルにF-5接栓（5C同軸ケーブル用接栓）を取り付ける場合の加工例です。

- 同軸ケーブルの先端を加工する場合、心線・編組に傷をつけたり上記加工以外の加工をすると断線やショート、機器の破損の原因になりますのでご注意ください。また心線と編組は、絶対に接触しないようご注意ください。
- 接栓を取り付けた同軸ケーブルの心線は、曲がっていないかを確認し、曲げないように接続してください。
- 設置した後で抜けたりしないように、同軸ケーブルのリングはしっかりと締めてください。
- 接続する同軸ケーブルの接栓の取り付けは、その同軸ケーブル専用の接栓を説明書通り加工してご使用ください。特殊な加工をしたものを使用すると特性の悪化や機器の破損につながります。

屋内へのケーブルの引込方法

アンテナ本体への同軸ケーブル（別売）の接続方法

〈屋内で使用する場合〉

- 屋内で使用する場合は、付属の防水キャップを使用する必要はありません。
- 別売のF形接栓加工済の同軸ケーブルを使用してください。
- 付属の電源部（それに続く地上デジタルチューナー内蔵テレビや地上デジタルチューナー）へ接続するの同軸ケーブルはアンテナ本体背面の出力端子「出力」に、BS・110度CSアンテナと接続する同軸ケーブルはCS/BS-IF混合入力端子「CS/BS-IF入力」に、しっかりと確実に接続してください。（接栓締付トルク　2N・m）

（注）接続後は、引っ掛けないように同軸ケーブルの引き回しに注意して配線処理をしてください。
差込式プラグの場合、長期間使用すると自然に抜け落ちることがありますので、時々接続状態をたしかめてください。

（例）L形プラグ付同軸ケーブル（別売）
付属の電源部へ（チューナー、テレビに続く）
BS・110度CSアンテナから

アンテナ本体への同軸ケーブル（別売）の接続方法のつづき

〈屋外で使用する場合〉

- 同軸ケーブルはできるだけ4Cまたは5Cケーブルのご使用をお勧めいたします。接栓は同軸ケーブルに合わせた製品を別途お買い求めください。

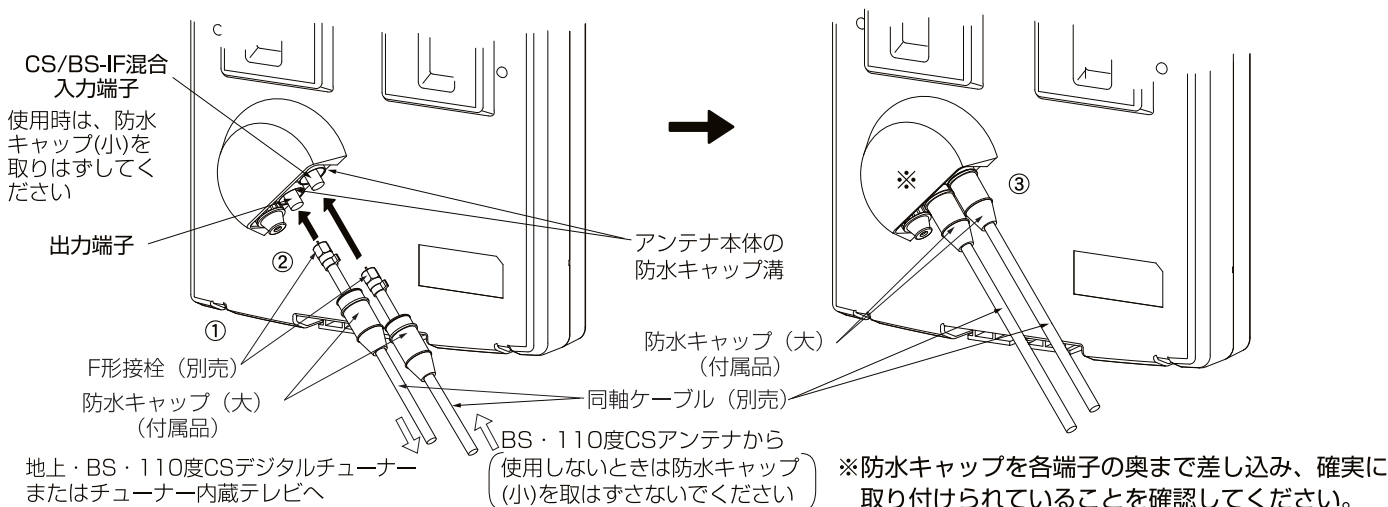
①防水キャップ（付属品）は同軸ケーブルの先端を加工する前に通しておいてください。（周囲が低温時等、ケーブルを通しにくい場合は強く押し込んでください）

②同軸ケーブル先端にF形接栓を取り付けた後、付属の電源部（それに続く地上・BS・110度CSデジタルチューナー内蔵テレビや地上・BS・110度CSデジタルチューナー）へ接続する同軸ケーブルはアンテナ本体背面の出力端子「出力」に、BS・110度CSアンテナと接続する同軸ケーブルは防水キャップ（小）をはずしたCS/BS-IF混合入力端子「CS/BS-IF入力」に、しっかりと確実に接続してください。

（接栓締付トルク　2N・m）

③F形接栓をアンテナ本体に接続した後、防水キャップ（付属品）をアンテナ本体の防水キャップ溝の奥まで確実に差し込んで接栓部を雨水などからカバーしてください。

※各端子には、必ず防水キャップをしっかりと奥まで差し込んでください。雨水が入ると故障の原因となります。

※防水キャップを各端子の奥まで差し込み、確実に取り付けられていることを確認してください。

電源部の設置と同軸ケーブル（別売）の接続方法

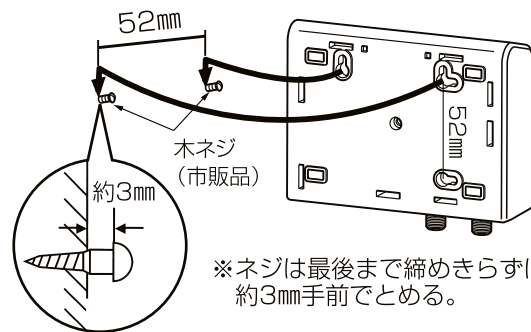
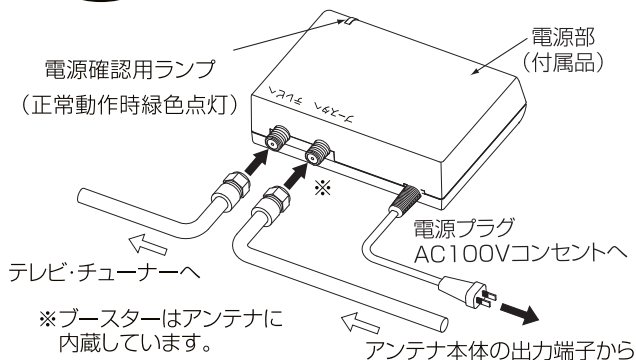
〈電源部の板壁への取付〉

- 電源部は据え置きするだけでなく、底面の壁掛用木ネジ穴を利用して、図のように柱または板壁に取り付けることができます。
  また、縦方向にも同じネジ穴の間隔で取り付けることができます。

〈電源部と同軸ケーブルの接続〉

- アンテナ側の同軸ケーブルを電源部の「ブースタへ」に、テレビ·チューナー側の同軸ケーブルを「テレビへ」に接続してください。（ブースターはアンテナに内蔵しています）
- 電源プラグをAC100Vコンセントに接続することで、電源がONとなり、電源確認用ランプが緑色に点灯します。電源プラグをコンセントに差し込んだときは、必ず電源確認用ランプの点灯を確認してください。

〈ご注意〉

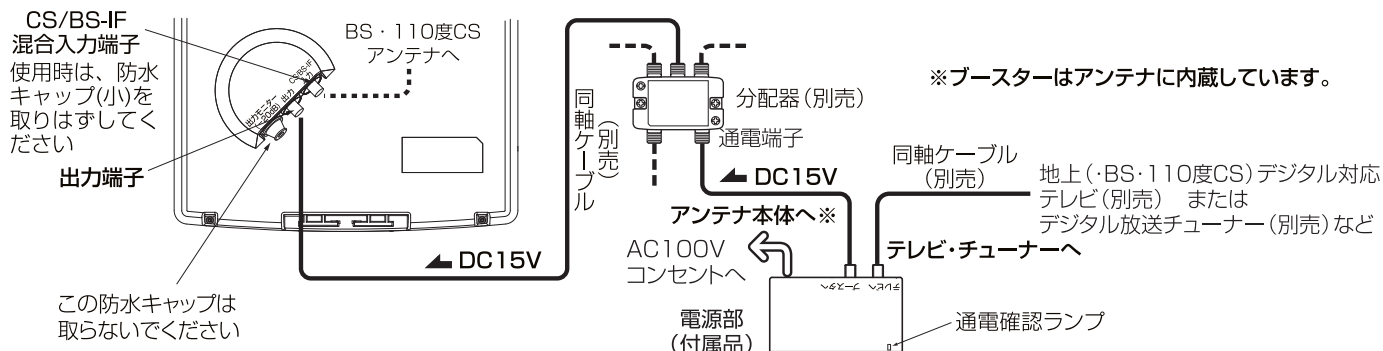
- この電源部には電源スイッチはありません。万一、煙が出るなど異常が生じたら、ただちに電源プラグを抜いてください。
- アンテナやテレビ、チューナーへのケーブルを接続後、電源プラグをAC100Vコンセントに差し込み電源をONしても、電源確認用ランプが緑色に点灯しない場合、F形接栓加工不良などによるショートの可能性があります。ただちに電源プラグを抜き、接続を確認してください。
- この電源部は、平面アンテナ専用の屋内仕様の付属品です。この製品以外に使用したり、屋外に設置しないでください。

この電源部からは、BS・110度CSアンテナ用に電源を供給できます。
接続しているチューナーやテレビのアンテナ設定では「アンテナ電源を供給しない」にしてください。

受信レベルとアンテナ方向の調整方法

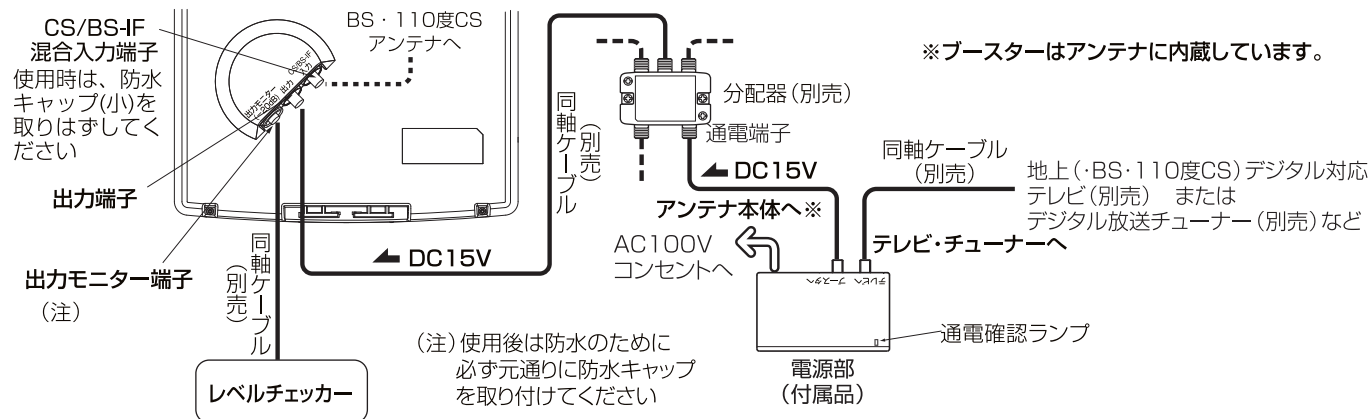
平面アンテナの方向は、実際に電波を受信して、レベルチェッカーまたは地上（・BS・110度CS）デジタルチューナー内蔵テレビや地上（・BS・110度CS）デジタルチューナーのアンテナ設定等を確認しながら、C/N値や受信レベルが最大になるように調整します。

- まず、アンテナ本体の出力端子には、電源部、地上（・BS・110度CS）デジタルチューナー内蔵テレビや地上（・BS・110度CS）デジタルチューナーの入力端子をそれぞれ同軸ケーブル（別売）で接続してください。
- BS・110度CSアンテナを設置し混合伝送する場合は、CS/BS-IF混合入力端子に同軸ケーブル（別売）で接続してください。
- レベルチェッカーを使用する場合は、アンテナ本体のモニター端子に接続してください。

〈地上デジタルチューナー内蔵テレビや地上デジタルチューナーを使用する場合〉

①アンテナ本体の出力端子と付属の電源部、地上デジタル放送チューナーまたはテレビを同軸ケーブル（別売）で接続します。必要に応じてアンテナと電源部の間に分配器などを使用する場合は、必ず電源部は使用機器の通電端子に接続してください。電源部は、アンテナ本体の出力端子側同軸ケーブルを「ブースタへ」に、「テレビへ」に地上デジタル放送チューナーまたはテレビ側同軸ケーブルを接続しますが、電源プラグはまだコンセントに差し込まないでください。

②BS・110度CSアンテナを設置するときは、防水キャップ（小）を取はずしたCS/BS-IF混合入力端子に、防水キャップ（大）を付けた同軸ケーブルで接続します。
③接続が完了してから電源部の電源プラグをAC100Vコンセントに差し込み電源をONにして、テレビ画面にアンテナ設定等を表示し、アンテナレベルを確認しながら数値が最大となるようにアンテナの方向を調整します。（9ページ参照）
※各端子には、必ず防水キャップをしっかりと奥まで差し込んでください。雨水が入ると故障の原因となります。

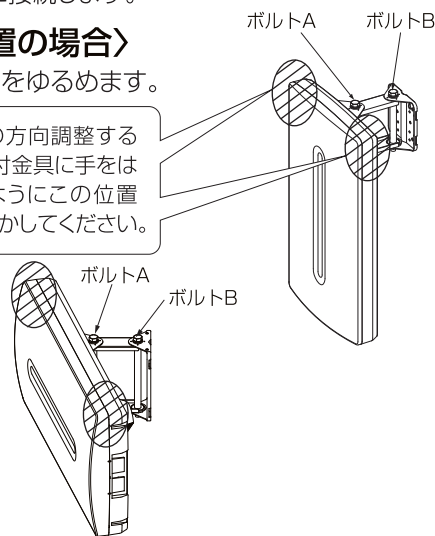
〈レベルチェッカーを使用する場合〉

①アンテナ本体の出力端子と付属の電源部、地上（・BS・110度CS）デジタル放送チューナーまたはチューナー内蔵テレビを同軸ケーブル（別売）で接続します。必要に応じてアンテナと電源部の間に分配器などを使用する場合は、必ず電源部は使用機器の通電端子に接続してください。電源部は、アンテナ本体の出力端子側同軸ケーブルを「ブースタへ」に、「テレビへ」に地上デジタル放送チューナーまたはテレビ側同軸ケーブルを接続しますが、電源プラグはまだコンセントに差し込まないでください。

②BS・110度CSアンテナを設置するときは、防水キャップ（小）を取はずしたC/SB-SIF混合入力端子に、防水キャップ（大）を付けた同軸ケーブルを接続します。
③アンテナ本体の出力モニター端子に付いている防水キャップを取りはずし、同軸ケーブル（別売）でレベルチェッカー等を接続します。
④接続が完了してから電源部の電源プラグをAC100Vコンセントに差し込み電源をONにして、レベルチェッカーでC/N値や受信レベルを測定します。
　出力モニター端子は実際の受信レベルより約20dB低い値を出力します。（UHF帯、CS/BS-IF帯）
　また、C/N値も実際の値より悪く表示されることがありますが、最大値になるように調整してください。
⑤C/N値や受信レベルが最大となるようにアンテナの方向を調整します。（9ページ参照）
⑥アンテナの方向調整が終了すると、レベルチェッカーを取りはずします。**アンテナ本体の出力モニター端子には防水キャップ（小）をしっかりと奥まで取り付けてください。出力モニター端子は測定用の端子です。測定以外の用途では使用しないでください。**

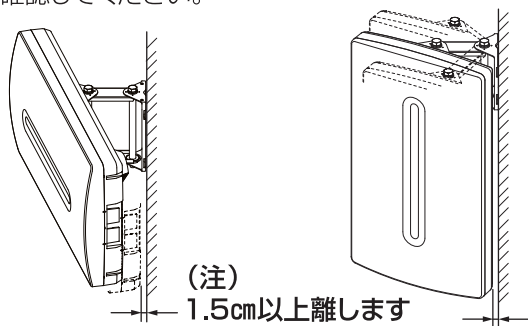
アンテナの方向調整

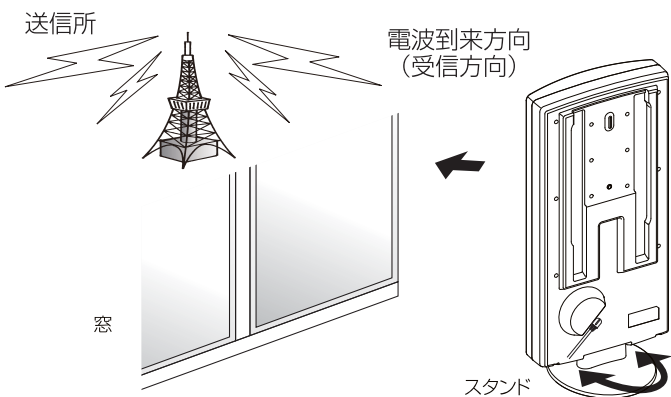
アンテナの方向調整は、実際に電波を受信して行いますので、一度仮にアンテナと地上デジタルチューナー内蔵テレビや地デジチューナーを接続してください。チューナーやテレビのアンテナ設定等を確認しながら、受信レベルが最大になるように平面アンテナの方向を調整します。レベルチェッカーなどの測定器を用いてアンテナの方向調整をする場合は、測定器を同軸ケーブルでアンテナの「モニター」に接続します。

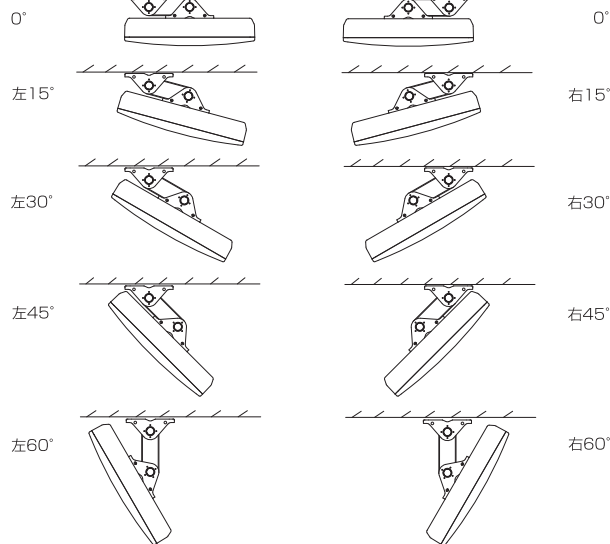
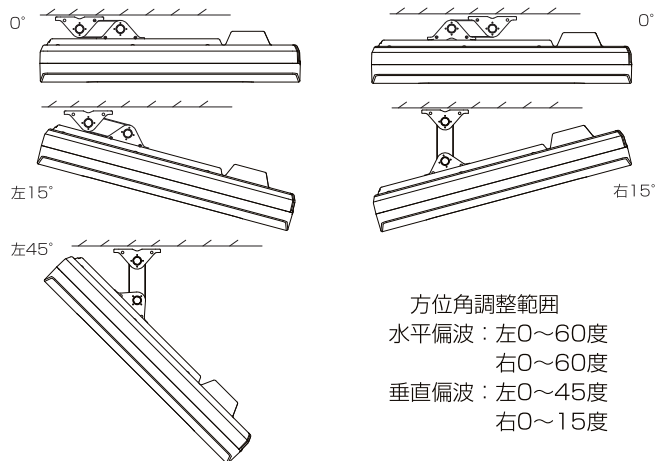
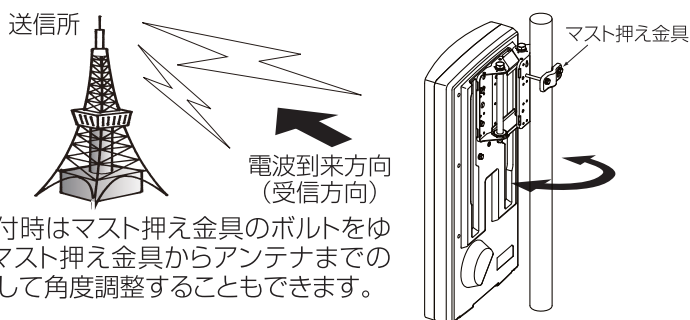
〈屋外設置の場合〉

①ボルトA、Bをゆるめます。

②「取付金具の位置図」を参考にして、平面アンテナを左右に動かし、受信レベルが最大になるようにアンテナの角度を調整します。

※壁面に取り付けたときに調整できるアンテナの角度は左図を参照してください。

③アンテナ側面が壁面から1.5㎝以上離れていることを確認してください。

④ボルトA･Bをしっかりと強固に固定します。

六角組ボルト（M10）締付トルク 9～10N･m

取付金具の位置図

アンテナと取付金具を図のような角度で固定することで、アンテナをより安定させ、壁面からの突出が少ない省スペース設置ができます。

※マスト取付時はマスト押え金具のボルトをゆるめて、マスト押え金具からアンテナまでの全体を回して角度調整することもできます。

〈屋内設置の場合〉

- 屋内で使用する場合は、スタンドを利用して良好な受信ができるようにアンテナの方向を調整します。

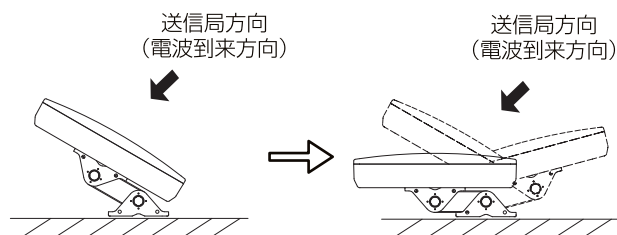
ポイント
窓際などでアンテナの向きをいろいろかえながら最も良く受信できるアンテナの向きを探してください。
屋内に設置して良好な受信ができない場合は、ベランダなどの屋外に設置することをお勧めします。

〈こんなときは〉

平面アンテナの方向は、実際に電波を受信して、レベルチェッカーまたは地上デジタルチューナー内蔵テレビや地デジチューナーのアンテナ設定等を確認しながら、受信レベルが最大になるように調整します。レベルチェッカーや地上デジタルチューナー内蔵テレビや地デジチューナーのアンテナ設定のレベル値に異常がある場合は、次のことをお確かめください。
受信レベルは60～90dBμV（モニター値:40～70dBμV）が目安です。アンテナレベルの目安はご使用の地上デジタルチューナー内蔵テレビや地デジチューナーの取扱説明書をご覧ください。

症　状	チェック項目	対　策
レベルチェッカーやチューナー、テレビのアンテナ設定で、レベルが表示されない	電源部（付属品）の電源確認用ランプが緑色に点灯していますか？	電源部のプラグをAC100Vコンセントに差し込んでください。 アンテナやテレビ、チューナーへのケーブルを接続後、電源プラグをAC100Vコンセントに差し込み電源をONしても、電源確認用ランプが緑色に点灯しない場合、F形接栓加工不良などによるショートの可能性があります。ただちに電源プラグを抜き、接続を確認してください。
	電源部の同軸ケーブル接続は正しいですか？	アンテナ本体側の同軸ケーブルは「ブースタへ」に、チューナーやテレビ側の同軸ケーブルは「テレビへ」に接続してください。
	アンテナと電源部の間に接続されている機器は通電仕様ですか？ または電源部は通電端子に接続されていますか？	通電仕様の機器に変更する、または通電端子に接続してください。
レベルチェッカーやチューナー、テレビのアンテナ設定で、レベルが低い テレビ画面にブロックノイズがでる <ブロックノイズのテレビ画面>	付属の電源部（それに続く地上デジタルチューナー内蔵テレビや地上デジタルチューナー）へ接続するの同軸ケーブルは、アンテナ本体の出力端子側に接続されていますか？　（間違えてモニター端子側に接続されていませんか？）	電源部とそれに続く地上デジタルチューナー内蔵テレビや地上デジタルチューナーは、アンテナ背面の「出力」に接続してください。
	電波到来方向にアンテナが向いていますか？	ご購入店でお住まい地域の送信所を問い合せるなど電波到来方向を確認してください。近隣の建物等に反射した電波を受信できることもありますが、新たな建築物等で電波状況が変化することがあります。
	電波到来方向に障害物がありませんか？	障害物のない状態で受信してください。 障害物を避けられない場合でも、アンテナの高さを50cm～1mくらい変化させると改善することがあります。アンテナの設置位置を変化させてみてください。
	電波が弱い	電波が弱すぎる場合は受信できません。
レベルチェッカーのレベルがモニター端子で80dBμv以上（出力端子で100dBμv以上）表示されているが、C/N値が悪いまたは受信できない チューナーやテレビのアンテナ設定で、レベルが高いのに受信状態が悪いまたは受信できない	電波が強い	アンテナの向きを電波到来方向からずらしてください。 （※）

（※）

このアンテナはブースターを内蔵していますので電波が強すぎるとブースターが過入力となり、受信不良になることがあります。
その場合はアンテナの方向を送信局からずらし受信レベルを下げてください。

電波が強すぎて受信不良

アンテナの向きを送信局（電波到来方向）からずらしてみる

使用上のご注意

- このアンテナではVHF帯（ch.1〜12）とUHF帯の53〜62チャンネルは受信できません。
- 地上デジタル放送を受信するためには、一定以上の受信レベルが必要です。電波の弱い場所や周囲に電波を遮ったり、反射するような障害物のある場所など受信レベルが低い場所では、地上デジタル放送がまったく受信できないかまたは時々ブロックノイズがでるなど不安定な受信状態になることがあります。（このアンテナは地上デジタル放送に加え、従来のUHFアナログ放送も受信可能です。ただし、アナログ放送の受信レベルが低い場所では受信できない場合があります。）
- 屋外で設置の場合、アンテナは電波到来方向の障害物をさけるように、できるだけ高い位置に設置してください。（一般的にアンテナの設置位置が高くなるほど受信レベルが良くなります。）
- 屋内で使用していて受信状態が不安定な場合は、アンテナを屋外に設置してください。
- アンテナを設置するとき、ネジ類はスパナなど工具を用いて、しっかりと締め付けてください。
- アンテナはいつも正しい方向に向いているようにご注意ください。
- このアンテナに多量に雪が積もった場合、雪の重みでアンテナが破損する恐れがあります。雪はこまめに払い落としてください。その際、安全には十分注意してください。
- 付属品のスタンドは屋内でのみ使用してください。
- 付属品の電源部を他の製品に使用したり、他の製品の電源部をこの製品に使用しないでください。故障の原因となります。

規格特性

品名	地上デジタル放送用平面アンテナ
品番	UAD1900
受信周波数(MHz)	470〜710(ch.13〜52)
偏波面	水平または垂直
インピーダンス（Ω）	75（F形）
標準利得(dB)	アンテナ部:8.2〜9.8、総合:22〜30
最大出力(dBμV)	90
ブースター部雑音指数 (dB)	1.2
VSWR	3.0以下
前後比(dB)	16以上
半値幅（°）	75以下
耐風速(m/s)	45（注1）
適合マスト径(mm)	マスト：φ22〜49、角柱：30×30〜45×45 ステンレスバンド（別売）使用時: φ50以上
方位角調整範囲（°）	±60（水平偏波・壁面取付時）
電源(V/mA)	DC15/30
寸法(mm)	626（H）×303（W）×153（D）（取付金具含む）
質量(kg)	2.8（アンテナ部）、1.3（取付金具）

（注1）耐風速は破壊風速です。

＜電源部　PSD-4＞　JEITA表示による（電源部本体の裏面にも表示しています）

使用周波数 (MHz)	10〜2610
電源 (V/W)	AC100（50/60Hz）/10
重畳電源 (V/mA)	DC15/700
入出力インピーダンス （Ω）	75（F形）
挿入損失(dB)	0.1〜1.5（10〜1000MHz）／0.2〜2.4（1000〜2610MHz）
使用温度範囲 （℃）	−10〜+40
外形寸法 (㎜)	37（H）×120（W）×100（D）
質量(kg)	0.25

規格は改良により、変更させていただくことがありますのであらかじめご了承ください。

外形寸法図

（単位：mm）

※この製品を処分するときは、地方自治体のルールに従って処理してください。

詳しいお問合せは、もよりのDX製品取扱店または下記をご利用ください。

カスタマーセンター TEL.(078)682-0455
受付時間 9:30〜12:00/13:00〜17:00（土曜・日曜・祝日および夏季・年末年始休暇は除く）

ホームページアドレス http://www.dxantenna.co.jp/

・札幌支店 TEL.(011)822-1251㈹
・旭川出張所 TEL.(0166)37-5830㈹
・東北支店 TEL.(022)243-2141㈹
・盛岡出張所 TEL.(019)636-1581㈹
・郡山出張所 TEL.(024)921-7131㈹
・東京支店 TEL.(03)3526-5402㈹
・東京東出張所 TEL.(03)5654-9881㈹
・多摩営業所 TEL.(042)572-4911㈹
・横浜支店 TEL.(045)651-2557㈹
・北関東支店 TEL.(048)652-3311㈹
・宇都宮営業所 TEL.(028)659-1100㈹
・新潟営業所 TEL.(025)276-2166㈹
・茨城営業所 TEL.(029)826-5341㈹
・千葉支店 TEL.(043)253-1121㈹
・静岡営業所 TEL.(054)281-0141㈹
・浜松営業所 TEL.(053)461-6885㈹
・中部支店 TEL.(052)919-6531㈹
・松本営業所 TEL.(0263)27-7801㈹
・豊橋営業所 TEL.(0532)57-2133㈹
・三重出張所 TEL.(059)226-1643㈹
・金沢支店 TEL.(076)261-9988㈹
・富山営業所 TEL.(076)422-7878㈹
・大阪支店 TEL.(06)6304-5651㈹
・堺営業所 TEL.(072)278-5311㈹
・京都営業所 TEL.(075)382-6141㈹
・神戸支店 TEL.(078)579-8550㈹
・姫路営業所 TEL.(079)283-5920㈹
・広島支店 TEL.(082)237-5331㈹
・岡山営業所 TEL.(086)245-2948㈹
・山陰出張所 TEL.(0853)24-2343㈹
・高松営業所 TEL.(087)868-1222㈹
・松山営業所 TEL.(089)925-3826㈹
・福岡支店 TEL.(092)541-0168㈹
・北九州営業所 TEL.(093)922-6556㈹
・長崎出張所 TEL.(095)842-0780㈹
・大分営業所 TEL.(097)504-7799㈹
・熊本営業所 TEL.(096)325-0711㈹
・南九州営業所 TEL.(099)267-8211㈹
・沖縄営業所 TEL.(098)874-6202㈹

DXアンテナ株式会社　（2010年9月現在）

本社/〒652-0807 神戸市兵庫区浜崎通2番15号 TEL.(078)682-0001（代）　東京支社/〒101-0023 東京都千代田区神田松永町19番地 秋葉原ビルディング8F TEL.(03)3526-6327（代）

4531